
統合 EDI 製品「ACMS シリーズ」の最新版 バージョン 4.7 を発売 ～ Microsoft SQL Server 2017、SQL Server 2017 on Linux など、 最新データベースをサポート～

株式会社データ・アプリケーション（本社：東京都中央区、代表取締役社長：武田 好修、略称：DAL、JASDAQ：3848）は、企業データをシームレスに連携する B2B インテグレーション・サーバ「ACMS E²X」と、企業間電子商取引に特化した B2B サーバ「ACMS B2B」ならびに動作環境を Windows に限定した「ACMS B2B Limited Edition」の最新版バージョン 4.7 を、8 月 31 日より販売開始いたします。

最新版では、マイクロソフト社のデータベース SQL Server 2017 (Windows/Linux) そして、オラクル社のデータベース・サービスである Oracle Database Cloud Service、Oracle MySQL Cloud Service に対応しました。

主力製品である ACMS E²X と ACMS B2B が導入される OS 環境は、Windows が約 60%、Linux が約 30% で、これら製品の管理データベースとして利用されるのが、SQL Server と Oracle Database でそれぞれ約 40% を占めています。（自社調べ）

この導入状況から、Windows と Linux のクロスプラットフォームをサポートする SQL Server 2017 は、Linux 環境で ACMS を検討されているお客様に対し、データベースの選択肢を広げることができることから、今回のバージョン 4.7 にて、早期に SQL Server 2017 を Windows/Linux の両方、検証を完了しました。

一方、EDI 環境の大きな変化として、2017 年 4 月 6 日に NTT 東西から「固定電話網の IP 網移行後のサービス及び移行スケジュールについて」の発表（※1）があります。この移行スケジュールによれば、2024 年初頭を目途に、固定電話網を利用した JCA、全銀 BSC、全銀 TCP/IP といった従来型 EDI 環境が使えなくなり、企業は従来型 EDI からインターネット EDI への移行を検討せざるを得ない状況になります。

DAL は EDI 環境に大きなインパクトを与えるこの発表を受け、今後インターネット EDI が普及するに伴いクラウドやサービスの利用が拡大するとの予想から、Microsoft Azure、AWS、Oracle Cloud など様々なクラウドやサービスへの対応を積極的に進めており、より経済性・柔軟性・信頼性の高い EDI 環境の構築を支援してまいります。

その他、今回の主な新機能は以下の通りです。

1. 稼働環境の充実

- ・以下のデータベースをサポート
 - Microsoft SQL Server 2017(※2)
 - Microsoft SQL Server 2017 on Linux(※2)
 - Microsoft SQL Server 2016 SP1
 - Oracle Database 12c Release 2
 - MySQL 5.6 / 5.7

・ Oracle Cloud の以下のデータベースをサポート

- Oracle Database Cloud Service
- Oracle MySQL Cloud Service

2. 通信機能強化

・ 通信コマンドアダプタの追加

-通信コマンドアダプタは、ACMS の通信ポートを利用し任意のコマンドを起動できる機能です。

・ オプション製品のファイル交換ツール「ACMS Web/deTrade II」が以下のブラウザをサポート

- Microsoft Edge
- Google Chrome
- Mozilla Firefox

注) 非タブレット版のみ対応

3. セキュリティの強化

インターネット EDI の通信プロトコルである EDI INT AS2 手順の送受信において、次世代の暗号アルゴリズムである ECDSA (※3) で署名された証明書をデジタル署名/暗号化で利用可能になり、よりセキュアなデータ交換を実現しました。

◆日本マイクロソフト様からのエンドースコメント

日本マイクロソフトは、株式会社データ・アプリケーション様の ACMS E²X および ACMS B2B の新バージョン 4.7 の販売開始を心からお祝い申し上げます。特に ACMS E²X 及び ACMS B2B が最新の SQL Server 2017 をご採用頂いたことにより、マイクロソフトの Windows および Azure、更に Linux 環境も含めたすべてのプラットフォームへご対応いただけます。これにより柔軟性、経済性、およびセキュリティやコンプライアンスに準拠したエンタープライズ顧客のニーズに適応し、パッケージの付加価値向上に寄与すると期待しております。今後も日本マイクロソフトは株式会社データ・アプリケーション様とパートナーシップを通じ、お客様のビジネスの発展に貢献してまいります。

日本マイクロソフト株式会社
クラウド&エンタープライズビジネス本部
業務執行役員 本部長 浅野 智様

以上

※1 : https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/20170406_01.html (NTT 東日本)

<http://www.ntt-west.co.jp/news/1704/170406a.html> (NTT 西日本)

※2 : 動作検証は Release Candidate 1 (RC1)で行っています。正式な製品版への対応状況は、今後のプレスリリースや Web サイト等でご確認ください。

※3 : ECDSA は Elliptic Curve Digital Signature Algorithm の略

最も一般的な呼び方が DSA で、Digital Signature Algorithm (デジタル・シグネチャー・アルゴリズム) の略。ECDSA は DSA の改良版で、DSA より安全性が高い。

◆販売・価格について

◇販売・出荷開始：2017年8月31日

◇販売価格（税別）：

ACMS E²X 150万円（基本機能）～

ACMS B2B 50万円（基本機能）～

ACMS B2B Limited Edition 20万円（基本機能）～

◇販売経路：DALのビジネス・パートナー72社を通じて販売 <http://www.dal.co.jp/partner/>

【株式会社データ・アプリケーション（DAL）について】

DALは、1992年に最初のUNIX向けの製品をリリースして以来、EDI（電子データ交換）を中心にシステム連携分野において信頼性の高いパッケージソフトウェアを自社開発し、国産ソフトウェアベンダとしてEDIパッケージ市場でリーダーシップを確立。2007年4月にジャスダックに上場しました（JASDAQ：3848）。

DALの「ACMS（Advanced Communication Management System）シリーズ」は、国内72社のビジネス・パートナーを経由して販売され、すでに2100社10000サイトを越える企業のミッションクリティカルなシステムで稼働しています。ACMSシリーズは、エンタープライズ・データ連携基盤「ACMS Apex」をはじめ、基幹システムと連携したB2B環境を容易に構築できるB2Bサーバ「ACMS B2B」、企業内外のデータ連携を行うB2Bインテグレーション・サーバ「ACMS E²X」など、システム規模・接続ニーズに応じた製品ラインアップを揃えています。また、システム連携では不可欠なデータのフォーマットや文字コードの変換・加工を行うデータハンドリングプラットフォーム「RACCOON」を2014年3月から提供しています。

【HP】<http://www.dal.co.jp/>

【Facebook】<https://www.facebook.com/DataApplications/>

【Twitter】https://twitter.com/dal_acms

【本件についてのお問い合わせ先】

報道関係	お客様
マーケティング本部	営業本部
Tel：03-5640-1437	Tel：03-5640-8544
Fax：03-5640-8541	Fax：03-5640-8541
E-Mail：pr@dal.co.jp	E-Mail：sales@dal.co.jp

※DAL、ACMS、AnyTran、E²X、WebFramer、RACCOONは、株式会社データ・アプリケーションの日本および海外での商標ならびに登録商標です。

※Microsoft、SQL Server、Azureは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

※本文中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。